



発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 法人 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 木村春雄

印刷所
 (株)東北プリント



ミルクファクトリー2007 (仙台市青葉区勾当台公園)

写真提供 宮城県牛乳普及協会

もくじ

CONTENTS

平成19年度生乳需給状況 ……………2	2007東日本デイリーショー受賞結果 ……………10
牛乳・乳製品フェア開催される “ミルクファクトリー2007” ……………3	第47回仙台牛枝肉共進会報告 ……………10
エコフィードの推進について ……………4-5	<畜試便り> 肉用牛産肉能力検定への畜産新技術の活用 ……………11
「第9回全国和牛能力共進会」開催される ……………6-8	<実践大生校生の抱負>「私の抱負」……………12
コントラクターによる稲発酵粗飼料生産について ……8	<衛生便り>中毒について ……………12
簡易放牧の推進に向けて-研修会を開催 ……………9	

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

平成19年度生乳需給状況について

東北生乳販連宮城支所 みやぎの酪農農業協同組合

平成19年度上半期の全国の受託乳量は、3,873,718^ト（前年比98.2%）となり、1.8ポイント前年を下回り、月別推移では18年3月以降、19ヶ月連続で前年割れとなっています。地域別にみますと、北海道の上半期の受託乳量は、1,863,923^ト（前年比99.8%）と0.2ポイント前年を下回り、19年度はほぼ前年並みで推移しています。一方、都府県の上半期の受託乳量は、2,009,795^ト（前年比96.8%）と3.2ポイント前年を下回り、17年の12月以降、22ヶ月連続で前年を下回って推移し、直近では大きな落ち込みとなっています。

東北の上半期の受託乳量は342,553^ト（前年比97.2%）と2.8ポイント前年を下回りました。2年続けての減産型計画生産ということもあり、19ヶ月連続で前年を下回って推移しており、直近の8・9月は、8月が例年以上に猛暑だったことから、過年度と比較して落ち込みが大きくなっています。各県別をみますと、青森県がほぼ前年並みで推移している他は、生産量の回復傾向は見られず、特に、秋田、山形及び福島県は大きく落ち込んでいます。

一方、上半期の用途別販売実績は、飲用牛乳向けが245,865^ト（前年比94.9%）、はっ酵乳向け等が34,545^ト（前年比116.5%）、及び特定乳製品向けが42,693^ト（前年比91.2%）となりました。飲用牛乳向けは、16年8月以降、38ヶ月連続で前年を下回って推移し、6月以降は5%を超す減少となり、依然として深刻な状況が続いています。はっ酵乳向け等は、19年度に入っても好調に推移しているものの、増加基調は鈍化してきており今後の動きを注視したい。特定乳製品向けは、生産量が落ち込んでいることもあり、昨年8月以降は前年を下回って推移していましたが、直近の7・9月は約4.0ポイント前年を上回りました。

本県の上半期の受託販売実績は、73,725^ト（前年比98.1%）と1.9ポイント前年を下回りました。月別推移をみますと、東北の傾向と同様に2年続けての減産型計画生産ということもあり18年3月以降、19ヶ月連続で前年を下回って推移しています。

最後に、主要乳製品であるバター・脱脂粉乳の9月末の在庫量については、バターが前年同期より9,000^ト減の20,300^ト、脱脂粉乳が23,400^ト減の46,000^トとなっています。現状の傾向で推移すれば「バターは適正水準をやや上回った水準に、脱脂粉乳はほぼ適正水準に落ち着く」と予測されています。

また、都府県における生乳需給についても、現状の基調で推移すると、12月における特定乳製品向け処理量は前年を下回ると見込まれるものの、余乳処理は年末・年始期の特定期間に集中することを勘案すると、楽観視できない状況にあります。

つきましては、余乳処理能力には限界があることから、需給のわずかな変動や乳質事故等によっても、予想以上の混乱が生じることも危惧されますので、生乳生産管理に万全を期されるようご理解、ご協力をお願いいたします。
(業務課 菅原 久義)

平成19年度全国生乳受託実績

(単位：ト、%)

地区名	6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
北海道	312,059	99.4	314,801	99.4	311,534	100.2	301,639	100.8	1,863,923	99.8
都府県	336,611	96.7	333,459	97.8	318,403	96.7	309,302	96.1	2,009,795	96.8
全国	648,670	97.9	648,260	98.6	629,937	98.4	610,942	98.3	3,873,718	98.2

平成19年度東北生乳受託・用途別販売実績

(単位：kg、%)

県	6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
青森	6,450,280.0	99.7	6,615,447.0	101.4	6,377,634.0	99.1	6,218,977.0	99.4	39,087,631.0	98.7
岩手	19,097,370.0	98.0	19,538,638.0	98.9	18,954,356.0	97.7	18,410,345.0	96.0	115,753,522.0	98.1
宮城	12,290,392.0	98.2	12,391,034.0	99.8	11,876,198.0	98.3	11,490,929.0	97.1	73,725,886.0	98.1
秋田	2,790,223.0	91.8	2,829,922.0	94.0	2,736,340.0	96.8	2,696,677.0	97.0	16,879,940.0	93.7
山形	7,347,652.6	95.5	7,316,883.6	93.8	7,200,705.1	94.2	6,942,098.0	93.5	44,344,804.6	95.4
福島	8,838,418.0	94.4	8,764,105.0	94.9	8,375,786.0	93.2	8,076,989.0	94.3	52,762,011.0	95.4
計	56,814,335.6	97.0	57,456,029.6	97.8	55,521,019.1	96.8	53,836,015.0	96.1	342,553,794.6	97.2

(単位：kg、%)

県	6月		7月		8月		9月		4～9月計		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
総受託販売乳量	56,814,335.6	97.0	57,456,029.6	97.8	55,521,019.1	96.8	53,836,015.0	96.1	342,553,794.6	97.2	
飲用牛乳向け	飲用牛乳向け	42,064,283.6	94.5	41,011,955.6	93.7	39,979,295.1	94.2	42,117,620.0	93.6	245,865,663.6	94.9
	(うち学乳向け)	3,428,638.7	95.1	2,396,073.6	105.4	1,010,344.2	98.4	2,868,735.5	86.8	15,523,770.9	96.9
	はっ酵乳等向け	5,930,666.0	123.5	5,624,121.0	114.6	5,797,235.0	111.4	5,596,865.0	107.4	34,545,635.0	116.5
乳製品向け	特定乳製品向け	5,707,124.0	88.9	7,375,936.0	104.0	6,517,463.0	92.7	2,949,384.0	103.9	42,693,920.0	91.2
	(うち委託加工向け)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生クリーム等向け	2,701,647.0	112.3	2,949,310.0	116.7	2,732,728.0	119.8	2,658,807.0	104.5	16,602,653.0	114.9
チーズ向け	404,915.0	97.0	488,817.0	118.7	488,209.0	116.5	507,616.0	115.6	2,810,931.0	109.6	
全乳哺育向け	5,700.0	82.6	5,890.0	93.0	6,089.0	103.4	5,723.0	100.4	34,992.0	90.1	

平成19年度宮城県生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

団体名	6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
みやぎの	6,725,382	98.2	6,798,879	101.4	6,545,893	99.4	6,305,200	98.1	40,405,135	98.5
全農宮城	2,107,418	96.3	2,117,306	96.9	2,019,970	94.9	1,970,035	94.8	12,587,920	95.8
宮城酪農	3,457,592	99.3	3,474,849	98.8	3,310,335	98.2	3,215,694	96.6	20,732,831	98.9
宮城県	12,290,392	98.2	12,391,034	99.8	11,876,198	98.3	11,490,929	97.1	73,725,886	98.1

牛乳・乳製品フェア開催される “ミルクファクトリー2007”

宮城県牛乳普及協会

10月20日(土)、21日(日)牛乳・乳製品フェア“ミルクファクトリー2007”が仙台市の勾当台公園において開催されました。2日間とも天気に恵まれ、会場内は大勢の家族連れで大変な賑わいでした。

今年の牛乳・乳製品フェアは、カルシウム摂取の啓発普及となる3-A-Day運動(牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも自由に1日3回食生活に取り入れる運動)、及び食育の必要性と食の「安全・安心」を提唱し、本来の牛乳・乳製品の良さを再認識しながら「おいしく・楽しく飲める」イベントとし、また、例年に引き続き宮城県内の農林水産業及び商工業などの関係団体、並びに地方自治体等の協力を得て県産品の展示即売等を行なう「みやぎまるごとフェスティバル2007」と共同開催し、より効果的なイベントを開催いたしました。

イベント内容としてミルクファクトリーステージでは、牛乳・乳製品を試食しながら、お勧め牛乳・乳製品の食べ方、飲み方等の勉強会トークを行いました。また、当日のイベント内容を宮城県内コミュニティFM4局「なるほどミルク放送局」から生放送され、子供達が大好きな「おじゃる丸」キャラクターショーも行われ、より多くの子供達にもおいしい牛乳の普及と必要性を呼び込みました。ミルククッキングスクールでは、ミルククッキング料理講習会などの牛乳・乳製品の料理コーナーや、親子での手作りバター体験学習を実施、ふれあいキッズパークでは乳搾り模擬体験コーナー、ポニー乗馬体験コーナー、ミルク情報館では、例年好評の骨密度測定も実施し、調理器具の展示・食事バランスガイド解説パネル展示等、牛乳・乳製品の普及等を行いました。

盛会裡のうちに終了した牛乳・乳製品フェア“ミルクファクトリー2007”でしたが、毎年イベントを楽しみにしている消費者の方々も多く、根強い人気で地元の皆様に定着していると実感致しました。

(村山ひろみ)



エコフィードの推進について

宮城県農林水産部畜産課

○エコフィードに関する情勢

現在、家畜飼料の国内自給率は25%、濃厚飼料自給率に至っては11%にしか過ぎません。また最近では、米国のバイオエタノール向けトウモロコシの需要拡大等により飼料価格が高騰しており、海上運賃、為替レートや天候等の影響もあり、今後も輸入穀物の価格動向は不透明な状況にあります。このため、輸入飼料原料依存から脱却し、国内飼料自給率を向上させることが課題となっています。

一方、国内では製造過程や売れ残り、食べ残しなど、大量の食品が廃棄されている現状にあります。このため、平成13年に食品リサイクル法が制定され、これらの食品循環資源を肥飼料やエネルギー等に再生利用する取組が推進されています。

これらの状況から、飼料自給率の向上と食品循環資源の有効活用のため、エコフィードの利活用が推進されています。

ところで、「エコフィード」という言葉ですが、これまではリサイクル飼料や食品残さ飼料などの呼称が使用されてきました。全国のエコフィード推進の主軸を担っている(社)配合飼料安定供給機構では、「エコフィード」を商標登録し、一般に使われる呼称となっています。また、エコフィードの安定的な利用体制を確立するため、エコフィード認証制度も創設に向けた取組がなされています。

○県内の状況

畜産農家におけるエコフィード利用状況については、(社)日本養豚協会が養豚基礎調査で養豚農家についての調査を実施しています。それによると、宮城県のエコフィード利用率は8.4%と北海道・東北平均の6.5%よりやや高いのですが、全国平均の13.9%を大きく下回っています。北海道・東北の利用率は全国で最も低く、取組強化が各県で進められています。

また、食品残さを主原料としている県内の飼料製造業者は28社あります。そのうち、食品事業者等から原料を集めて飼料化加工している業者が14社(うち10社は魚粉)、食品製造工場が製造残さを自ら飼料化しているところが14社です。この他にも飼料原料として残さを供給している食品事業者は多く存在すると考えられ、特に大手の食品製造工場は既に大半がリサイクル(肥料化等も含む)に向けられているようです。

このような中で、昨年からの新たな取り組みが出てきており、いくつかその概要を紹介します。

- ・ 収集処理業者が食品製造残さに乳酸菌を添加、乾燥発酵処理により飼料化し、肉牛農家、養豚農家に供給。(仙台市)
- ・ 冷凍食品工場が自社の製造残さを乾燥発酵処理により飼料化し、養豚農家に供給。(白石市)
- ・ 堆肥生産業者が広葉樹皮と食品残さを混合、サイレージ化し、肉牛農家、酪農家に供給。(栗原市)
- ・ 製麺業者組合6工場が製麺くずを酪農家に供給。(白石市)

これ以外にも、取組を検討している企業、農家が増えてきている状況にあります。

今後の推進に際しては、各地域における良質な資源を掘り起こし、地域で活用する地域内リサイクルループの形成が重要になってくると考えられます。このためには、行政の果たす役割は大きく、その積極的な推進が期待されます。

また、生産段階で使い勝手を考慮し、配合飼料工場と連携した取組も検討していく必要があります。

○宮城県エコフィード需給ネットワーク

最近、エコフィードへの新規取組を検討する畜産農家や食品事業者が増えていますが、これまではお互いの需給に関する情報が不足している状況にありました。そこで、県では「宮城県エコフィード需給ネットワーク」を設置し、以下の情報の提供を開始しました。

- ・ 食品事業者からのエコフィード原料の供給情報
- ・ 飼料製造業者のエコフィード原料の需要情報と製品供給情報
- ・ 畜産農家からのエコフィード原料の需要情報

まだ、立ち上げたばかりで情報量が少ないのですが、今後、関係機関の協力を得て、情報の拡大を図っていく予定です。なお、需給情報は、畜産課ホームページ(<http://www.pref.miyagi.jp/tikusanka/>)に掲載しています。また、県では今後、推進体制の整備を図るとともに、普及啓発活動や取組を実施している箇所、検討している箇所等に対して技術支援等を実施する予定にしています。

○エコフィード関連助成事業

平成19年度に実施されているエコフィードに関連する主な助成事業は以下のとおりです。各事業ごとの要件が詳細に定められていますので、担当部署にご相談下さい。

平成19年度エコフィード関連主要事業（農林水産省所管）

【ソフト事業】

○国産飼料資源活用促進総合対策事業（畜産生産性向上等促進総合対策）

・未利用資源の飼料化の促進

ア 地域エコフィード利用体制確立支援

関係者による連携、地域情報の分析等により、地域での未利用資源の飼料利用体制を確立する。

イ 未活用・低利用資源の飼料化促進

小規模店の豆腐かす・パンくずやDDGS等新たな飼料原料について、利用方法の検討を行う。

補助率：定額 窓口：(社)宮城県畜産協会

【ハード事業】

○地域バイオマス利活用交付金

・地域バイオマス利活用整備交付金

ア 地域モデルの実証

地域（県内、市町村内）における効果的なバイオマス利活用を図るために必要なバイオマス変換施設及びバイオマス供給施設・利用施設の一体的な整備

イ 新技術等の実証

新技術を活用したバイオマス変換施設のモデル的な整備

補助率：1/2以内（民間事業者は1/3以内） 窓口：市町村、県食産業振興課

○エコフィード利用に際しての留意点

家畜の飼料は、家畜あるいは最終生産物を食品として摂取する人間に影響を与えるため、健康への悪影響の防止に配慮する必要があります。このため、飼料安全法等に基づき、その安全性が確保されるよう管理されています。エコフィードについても例外ではなく、供給者側、使用者側とも適切に管理することが必要です。

農林水産省では、「食品残さ等利用飼料における安全性確保のためのガイドライン」を昨年度制定し、飼料安全性の確保や家畜衛生の観点から、原料収集、製造、保管並びに給与等における管理の基本的な指針を示しています。エコフィード供給・使用の際は必ずガイドラインに目を通し、遵守するようにして下さい。

エコフィード利用における主な注意点

- ・食べ残しは、事業者の目の届かないところで、異物や有害なものが混入する可能性があるため、確実に異物等を除去できる場合以外は使用しないでください。
- ・かびの発生及び腐敗が認められるものは、使用しないでください。
- ・異物や有害な物質が混入しないよう、確実に分別・保管してください。
- ・動物（牛、豚、羊、鶏、魚介類など）由来たん白質は、反すう動物（牛、羊など）用飼料としては使用できません。
- ・食品製造副産物としての反すう動物（牛、羊など）由来たん白質は、飼料として使用できません。
（ただし、乳、乳製品、卵、卵製品は使用できます。）
（余剰食品、調理残さ等に含まれるものは、豚用・鶏用飼料として使用できます。）

動物由来たん白質の使用可否

動物性原料		給与対象畜種			
		牛	豚	鶏	魚
牛	食品製造副産物	×	×	×	×
	余剰食品、調理残さ等	×	○	○	×
	乳、乳製品	○	○	○	○
	豚	×	○	○	×
	鶏	×	○	○	×
	卵、卵製品	○	○	○	○
	魚	×	○	○	×
	ゼラチン、及びコラーゲン (大臣確認済みのもの)	○	○	○	○

(草地飼料班 柴田知也)

「第9回全国和牛能力共進会」開催される 開催テーマ：和牛再発見！－地域で築こう和牛の未来－

全国和牛登録協会宮城県支部

主催 社団法人 全国和牛登録協会
 運営団体 第9回全共鳥取県実行委員会
 参加 全国38道府県
 会期 平成18年6月28日(水)～平成19年10月14日(日)
 最終審査 平成19年10月11日(木)～平成19年10月14日(日)
 会場 種牛の部 鳥取県米子市 崎津団地
 肉牛の部 鳥取県大山町 (株)鳥取県食肉センター
 出品頭数 種牛313頭、肉牛191頭、合計494頭

この共進会は、和牛に求められる経済能力を時代に応じた能力向上を図り、和牛の改良成果の集約点として開催し、和牛改良の当面の課題に応じて出品区分や出品条件を設定し、時代の要求にかなう種牛や肉牛を実証・展示するとともに、日常の登録事業を通じた改良成果を競う場として開催されました。

宮城県では、若い県有種雄牛を活用し「みどりの和牛育種組合」「登米和牛育種組合」「栗原和牛育種組合」が中心となり、開催テーマに沿った－地域で築こう和牛の未来－を基本に種雄牛・種雌牛とも地域内生産牛から選抜し、種牛18頭・肉牛8頭を出品いたしました。

本県の成績は、優等賞を4つの区で・1等賞を2つの区で・2等賞を4つの区でそれぞれ受賞し、前を上回る成績であり、本県和牛の種牛としての評価が向上した結果と考えられます。特に本県産種雄牛候補を出品した第1区については、本県初の優等賞を受賞し、今回初めて出品区として設けられた系統雌牛群(第4区)では、系統の特徴として「肩付」の良さが認められ優等賞に入賞いたしました。本県出品牛の成績は次のとおりです。

出品区		出品者	成績
第1区	若雄	宮城県畜産試験場	優等賞 9席
第2区	若雌の1	丸森町 半沢 仁一	1等賞 12席
第3区	若雌の2	栗原市 高橋美智江	優等賞 13席
第4区	系統雌牛群	みどりの和牛育種組合 涌谷町 三浦 孝志 涌谷町 小竹 義幸 大崎市 佐藤 和也 大崎市 久本 次男	優等賞 5席 農林水産省生産局長賞
第5区	繁殖雌牛群	みどりの和牛育種組合 美里町 佐藤 清悦 美里町 結城 英文 大崎市 千葉 貢一 大崎市 山田 眞一	2等賞 2席
第6区	高等登録群	田尻和牛改良組合 大崎市 後上 孝行	1等賞 4席
第7区	総合評価群	登米和牛育種組合 登米市 船島 一芳 登米市 佐藤 義浩 登米市 佐々木 昌典 登米市 高橋 健一 登米市 千葉 英軍 登米市 千葉 敏徳 登米市 佐瀬 徳	2等賞 2席
第8区	若雄後代 検定牛群	栗原和牛育種組合 栗原市 鈴木 秀一 栗原市 菅原 徳秀 栗原市 鈴木 教一	2等賞
第9区	去勢肥育牛	登米市 千葉 正憲 大崎市 石川 高雄	優等賞 24席 2等賞 2席



村井知事表敬訪問にて



宮城県出品者関係者記念写真



宮様の目に留まる3区出品牛「きくやすひら」号と高橋美智江さん



二人そろっての入賞は宮城県初 (左:高橋美智江さん 右:佐々木昌典さん)



出発式「がんばろう三唱」で意気を上げる。



開会式において福原会長挨拶



宮城県出品者入場行進



「若雄」第1区 本県初の優等賞



また、本共進会の付帯行事として開催された、和牛審査競技会（高校生の部・後継者の部・女性の部）において、後継者の部に参加した登米市の佐々木昌典さんが堂々全国第1位に輝き、女性の部に参加した栗原市の高橋美智江さんが5位に入賞しました。更に閉会式においては、登録事業功労者として前全国和牛登録協会宮城県支部長の佐竹仁郎氏、全共功労者として全共に通産3回出品した登米市の千葉英軍司氏が表彰されました。出品者並びに関係者のご活躍に感謝申し上げます。

次回、第10回全国和牛能力共進会は平成24年に長崎県を会場に開催予定です。

和牛繁殖農家の皆さん・肥育農家の皆さん

和牛改良と管理技術向上のため挑戦してみたいはかがでしょうか

(生産指導グループ 上野新英)

コントラクターによる稲発酵粗飼料生産について

社団法人 宮城県農業公社

1. コントラクターによる稲発酵粗飼料生産への取り組み

稲発酵粗飼料（以下イネWCS）は水田機能を維持したまま栽培出来る飼料作物で、安全・安心な国産粗飼料として積極的な取り組みが行われています。

宮城県でのイネWCSの生産は平成13年度以降作付面積が拡大し、平成19年度は約320ha（うち、農業公社収穫調製作業約214ha）の作付面積となっています。

農業公社では収穫調製受託作業を平成13年度により実施し、専用機も受託面積の増加に伴い収穫機6台、ラップマシン7台にて、今年度は8月中旬より公社の持つ技術と機動力を生かし、良質な粗飼料生産を目指して実施しました。

2. 耕種・畜産農家での取り組み

◇イネWCSの利点

- ①耕種農家は従来のもろこし技術での栽培が可能で作付けが容易です。
- ②麦・大豆栽培による連作障害のクリーニングクロープとしての利用が可能です。
- ③ほ場整備工事の事前・事後転作にも利用出来ます。
- ④畜産農家では、栄養価値の高い飼料作物で嗜好性も大変良好です。

◇助成金

- ①産地づくり交付金（地域毎に要件や助成単価が異なります）
- ②耕畜連携水田活用対策として平成19年度は13,000円/10aの助成。
- ③国産粗飼料増産対策事業では、畜産農家が家畜へ給与する場合、給与助成として平成19年度は10,000円/10aの助成。

(作業状況)



(給与状況)



3. イネWCS収穫調製における関係機関との連携

◇作業時期

収穫適期が集中するため、移植時期・直播・専用品種利用による適期調整及び収穫適期に幅を持たせることで良質な粗飼料生産が可能となります。

◇生産物（イネWCS）の利活用

地産地消が基本です。農業公社では輸入飼料の高騰している現状を踏まえ、関係機関と連携し多くの畜産農家に利用・推進を行っています。

○農業公社では収穫調製受託作業と併せてサイレージの斡旋・販売も行っております。

問い合わせ先：事業推進部牧場管理班 022-275-9193まで

(牧場管理班 佐藤光美)

簡易放牧の推進に向けて—研修会を開催—

大崎家畜保健衛生所

農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加、そして飼料価格の高騰など農業農村はもとより畜産経営にとって厳しい状況が続いています。このような中で、飼養管理の省力低コスト化と農地の有効活用を目的に休耕田等を活用した肉用繁殖牛の簡易放牧が注目され全国的に取り組みが進んでいます。

大崎地域においても休耕田を利用した肉用牛の簡易放牧が行われています(写真1)。しかし、まだ一部地域に限られていることから普及推進のため関係団体と連携し研修会を開催しました。

放牧アドバイザーとして全国で活躍されている社団法人日本草地畜産種子協会の落合一彦先生を講師に「全国に広がる和牛放牧と放牧のメリットを生かす技術」についてご講演いただきました(写真2)。講演内容の報告を兼ねて簡易放牧のメリットや留意点を紹介します。

■簡易放牧とは？

文字どおり誰でも簡単に取り組める放牧技術で、現在一般的に行われているのはソーラーパネルと電気牧柵を使用した放牧です。放牧に必要な面積は草の状態にもよりますが5月から10月まで放牧すると成牛1頭当たり50アール程度あれば十分です。

放牧場を作るには牧柵支柱・電牧線・電牧器等の機材が必要となります。これらをすべて市販品で揃えると20万円くらいかかります。しかし、ビニールハウスの支柱など既存資材や古材を活用すれば設置費用を大幅に低減することができます。また、舎飼いと比べエサ代等飼養管理費用は大幅に節減できるので設置費用は数年で回収できます。

■簡易放牧のメリット

①エサやりやふん出しの手間がなくなり低コストで省力。②適度な運動と日光浴、ビタミン豊富な生草採食で受胎率が良くなる。③牛舎スペースが不足していても増頭が可能。

■取り組む上での留意点

簡易放牧を始めるにあたっては次の点に留意してください。①予め牛を電気牧柵や舎外の環境に馴れさせる。②1頭だけで放牧せず2頭以上で放牧する。③放牧＝放任ではありません。牛の状態はもとより、飲み水はあるか、草は足りているかを毎日観察します。また、放牧場所は上水道水源の近くや水はけの悪い湿地は避けましょう。

放牧は家畜本来の能力を活かした自然循環型農法です。県内でも簡易放牧が普及し始めています。高齢化で担い手が減少する中で増頭や飼料自給率の向上を図るために放牧は有効な手段です。読者の皆さんも取り組んでみませんか。

(指導班 及川克徳)



2007東日本ディリーショー 受賞結果

宮城県ホルスタイン改良同志会

秋空のもと、平成19年10月25日(木)岩手県雫石町全農岩手県本部中央家畜市場において盛大に開催されました。

出品牛はホルスタイン種107頭、ジャージー種10頭のうち宮城県からはホルスタイン種10頭が出品され、(株)十勝家畜人工授精所 山口寿典氏により審査が行われ、大崎市八巻 誠氏、丸森町 半澤 善幸氏が上位入賞いたしました。

宮城県入賞牛は下記のとおりです。

記

第3部4席

エイトロール ダーハムサム ワツシヨイ
大崎市 八巻 誠氏

第5部3席

エイトロール ダンデイー ロマネスク
大崎市 八巻 誠氏

第7部1席(リーザープ インターミディエイト チャンピオン)

ベリーエフ ダーハム ベニ
丸森町 半澤 善幸氏

第8部1席(インターミディエイト チャンピオン)

ブラメリア インテイグリテイ リートン
丸森町 半澤 善幸氏

(事務局
社団法人 宮城県畜産協会
家畜改良課)



第47回 仙台牛枝肉共進会終了報告

全農宮城県本部

農林水産祭参加 第47回仙台牛枝肉共進会は、11月4~7日の4日間 仙台中央食肉卸売市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

[チャンピオン牛]

(第1部)

黒毛和種去勢の部

出品者: 肥育牛センター (JAみどりの)

血統: 父 神勝福

母の父 奥茂

規格: A5

枝肉重量: 510.5Kg

枝肉単価: 7,139円

(第2部)

黒毛和種雌の部

出品者: 佐藤 昭 (JA栗っこ)

血統: 父 茂勝栄

母の父 菊谷

規格: A5

枝肉重量: 424.0Kg

枝肉単価: 6,270円

農林水産祭参加 第47回仙台牛枝肉共進会

第1部 黒毛和種(去勢)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	126	みどりの	肥育牛センター	神勝福	奥茂	A5	510.5	7,139
最優秀賞1席	106	あさひな	若生 寛	北平安	平茂勝	A5	499.5	3,073
最優秀賞	2	古川	加藤 勝	北湖2	平茂勝	A5	478.5	4,251
最優秀賞	68	みやぎ登米	須藤国実	奥北茂	北国7の8	A5	469.0	2,722
最優秀賞	27	栗っこ	高橋利郎	平茂勝	紋次郎	A5	525.0	2,756

第2部 黒毛和種(雌)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	198	栗っこ	佐藤 昭	茂勝栄	菊谷	A5	424.0	6,270
最優秀賞1席	185	いしのまき	川村大樹	第1花園	茂糸波	A5	403.0	6,004
最優秀賞	160	みやぎ登米	梅川利一	北仁	茂勝	A5	420.0	2,840

(生産販売グループ 高川信幸)

〈畜試便り〉

肉用牛産肉能力検定への畜産新技術の活用

宮城県畜産試験場

はじめに

現在、種雄牛を造成・選抜する方法として現場後代検定を実施し候補種雄牛の産肉能力の検定を行っています。この検定法は、候補種雄牛が生まれてから精液の供用が開始されるまで約6年という長期間を要し、各候補種雄牛毎に現場後代検定材料牛として20頭以上の産子を確認し肥育することから、多大な経費が必要となります。

そこで、畜産試験場では種雄牛の造成・選抜の期間短縮ならびにコスト削減を図るための方法として、受精卵移植技術等の畜産新技術を活用した産肉能力検定システムの検討を行っています。

体外受精 (IVF) 由来子牛による産肉能力検定

候補種雄牛の産肉能力検定材料牛を受精卵移植技術を活用して乳牛から生産できれば、コストパフォーマンスに優れた検定システムを推進することが可能となります。また、IVF卵を検定材料牛生産のための調整交配開始前から生産・移植を行うことにより、現場後代検定よりも早く枝肉成績が得られるようになります。今回、食肉処理場由来卵巣から吸引採取した黒毛和種の卵子を使用し、候補種雄牛の精子でIVF卵を作製し、これを乳牛に移植してIVF由来子牛を生産し肥育を行い、現場後代検定成績との比較を行いました。

平成14年度からこの試験に取り組み、18年度に安敏波号の産子12頭、19年度に南安平号の産子16頭の肥育成績が得られ、現場後代検定成績とIVF検定成績を比較するとほぼ同様の成績が得られました。

体細胞クローン技術を利用した産肉能力検定

体細胞クローン牛とは体細胞を提供した牛と同一の遺伝形質を再現することが可能で、黒毛和種種雄牛の産肉能力検定において、候補種雄牛のクローン検定1頭から得られる成績は、従来から行われてきた後代(産子)を肥育して得られる成績6～8頭分に匹敵すると言われており、検定コストを飛躍的に削減できます。

今回、生産に成功した安敏波号および南安平号の体細胞クローン牛、各1頭を肥育したところ2頭ともに枝肉格付けは最高のA-5に格付けされ、枝肉成績は大変良好でした。

現場後代検定と畜産新技術応用検定成績の比較

安敏波号の現場後代検定成績と比較すると、IVF検定成績はほぼ同等の成績でした。また、現場後代検定成績から安敏波の産肉能力を計算した育種価評価とクローン検定成績を比較すると、霜降りの度合いを示すBMS No.が9.3に対して10と非常に近い成績が得られました。

今後は、今年度現場後代検定が終了した南安平号の成績について比較検討を行います。IVF検定については産肉能力検定としての可能性が実証され始まったところであり、今後も継続して候補種雄牛のIVF産子の生産・肥育を行い枝肉成績と現場後代検定成績を比較したデータを積み重ねて行く予定です。その上で迅速かつコストパフォーマンスに優れた検定技術の確立に向けて検討していきたいと考えています。

表1 〈安敏波号〉現場後代検定と畜産新技術応用検定成績の比較

安敏波	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	脂肪交雑 BMS No
現場後代成績	406.8±42.5	51.1±7.9	7.5±0.8	6.1±1.9
体外受精検定成績	437.0	55.1	8.4	6.5
育種価評価	421.0	52.5	7.5	9.3
クローン検定成績	493.5	57.0	8.3	10.0

現場後代検定：去勢12頭・雌8頭

体外受精検定：去勢5頭・雌7頭

育種価評価：本牛期待枝肉成績

検定種牛自身が去勢され、29ヶ月齢まで肥育されたと仮定した場合に期待される本牛の枝肉成績

表2 〈南安平号〉現場後代検定と畜産新技術応用検定成績の比較

	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	脂肪交雑 BMS No
現場後代成績	414.3±36.1	56.7±9.2	8.0±0.6	5.6±2.3
体外受精検定成績	475.3	60.6	8.5	5.4
クローン検定成績	462.0	65.0	8.3	8.0

現場後代検定：去勢12頭・雌10頭

体外受精検定：去勢11頭・雌5頭

(酪農肉牛部 バイオテクノロジー研究チーム 早坂駿哉)

〈実践大学校生の抱負〉

私の転機

宮城県農業実践大学校畜産学部
肉牛専攻2年 瀬戸 千尋



現在、私の家（大崎市松山）では繁殖母牛十二頭、水田6haという小規模で運営しています。この宮城県農業実践大学校を卒業した後は父の知り合いの獣医師のもとで家畜人工授精師の修業をしながら実家の経営を引き継ぎ、最低でも三十頭以上の規模にしていきたいと思っています。そのためにもまずはこの農業実践大学校で経営や農業のことを学び、その後活かすことが重要です。

最近では友人と将来のことについて話すことが多くなりました。「将来は繁殖母牛を百頭まで増やしたい。」「削蹄師として地域に貢献したい。」「規模拡大するまでは働いて、その後に農業に従事しようと思う。」など人それぞれではありますが、そのしっかりとした考えは共に学ぶ仲間として頼もしくもあり、「私も頑張らなくては」という責任感にも似た気持ち湧いてきます。

他にも「こういう風に牛舎を建てたらどうだろう?」「いやいやこういう風にしたほうがいい。」「こういう血統はどうだろう。」「うちではこっちのほうが増体も良かった。」など休み時間に畜産の話題を真剣に話している姿があります。そんな風景を見ていると「農業の未来もそんなに暗いものじゃないな。」と思えてきます。

気づけば卒業まで半年を切り、あとは削蹄の実習と卒論の研究と発表を残すだけとなりました。この農業の未来を預けるに足る友人達と机を並べて勉強できるのもあと少しです。卒業すればそれぞれの道を歩み、今までのように気軽に相談や議論などができなくなることが名残惜しくもありますが、彼らと再会した時に再び牛の話題で、しかも今度は自分の経営を、ああでもない、こうでもない議論できることが今から楽しみです。

自分が就農して良い経営をするためにも残りのわずかの期間、一日一日をしっかりと勉学に励み、最終的には自分の地域の農業に少しでも貢献できるような農家になりたいと思います。

〈衛生便り〉

中毒について

大崎家畜保健衛生所

今年度、大崎管内で確定診断には至りませんでした。が牧草、あるいは牧草混入雑草での中毒を疑う牛の症例があり、注意していただきたいので紹介します。

1 輸入乾草によるエンドファイト中毒；エンドファイトとは菌の一種で、植物に寄生させると毒素を産生するため害虫がつきにくくなることから、芝生用牧草に、人工感染させることが行われています。採種後のペレニアルライグラスやトールフェスクの茎部分が「イタリアンストロー」などの名前で家畜の飼料用に輸入されています。安価ですが単体・多量給与では神経症状、泌乳量低下、起立不能といった症状がおり死亡することもあります。イタリアンライグラスと間違えやすいので注意して下さい。イタリアンライグラスでは、中毒がおりません。また、他の飼料も与えていれば通常は中毒がおりないようです。

2 イヌスギナ中毒；葉はスギナに似ていますが、丈が30cm以上にもなり、春にはスギナの上にツクシが乗っているような奇妙な姿となります。湿気を好むので日陰、水際などによく生えます。植物全体に毒があり、牧草収穫で混入し、それを食べることで中毒が起きます。症状は下痢、食欲不振、乳量低下などです。

実際の症状が飼料によるものか、別の病気によるものかはすぐに判断出来ません。伝染病の場合もあるので、異常を発見したらかかりつけの獣医師や最寄りの家畜保健衛生所・畜産振興部へ連絡して下さい。また、飼料があやしいと感じたら、いったんその給与をやめ様子を見て下さい。

(防疫班 福田 智子)